

**専攻科看護学専攻 後期**  
**専門基礎科目／専門強化科目**

1. 看護心理学
2. 看護ケアに生かす情報通信技術 ※不開講
3. 看護管理論
4. 臨地実践研修
5. 看護実践研究

## 専攻科看護学専攻

科目名:	看護心理学	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		3	後期	専門基礎科目	講義	選択			
担当教員:	竹ノ山圭二郎								
授業科目の学習教育目標の概要									
心身の発達及び学習の過程における基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導方法や看護上必要な心理検査の基礎を学ぶ。									
授 業 計 画		準備学修(予習・復習等) 学習内容				学修に必要な時間(分)			
①クエスト型授業」の進め方、および教育心理学の領域について		【予習復習】授業への動機づけとガイダンス				30			
②社会性の発達		【予習復習】エリクソンのライフサイクル論				60			
③認知の発達		【予習復習】ピアジェの発生的認識論				60			
④学習理論 I		【予習復習】条件づけ理論				60			
⑤学習理論 II		【予習復習】社会的学習理論				60			
⑥知能と知能検査		【予習復習】知能に関する理論および検査の概略				60			
⑦主体的学習を支える動機づけの理論		【予習復習】動機づけ理論				60			
⑧教育評価の考え方		【予習復習】教育評価の理論				60			
⑨学習の支援者としての教師の役割		【予習復習】教師論				60			
⑩授業のデザインの基本		【予習復習】授業デザインの基本的考え方				60			
⑪主体的学びを促進する教授法		【予習復習】アクティブラーニングの考え方				60			
⑫クラスマネジメントと配慮を要する学習者への支援		【予習復習】学習者支援の基本的考え方				60			
⑬【演習】指導案の作成		【予習復習】模擬授業の指導案を作成する				60			
⑭【演習】ミニ模擬授業 I: 学校教育における授業の実践		【予習復習】模擬授業を実践する				60			
⑮【演習】ミニ模擬授業 II: 生涯学習における講座の実践		【予習復習】模擬授業を実践する				60			
⑯知能検査1: ビネー式知能検査		【予習復習】ビネー式知能検査の概略				60			
⑰知能検査2: ウェクスラー式知能検査		【予習復習】ウェクスラー式知能検査の概略				60			
⑱性格検査1: 質問紙法検査		【予習復習】質問紙法性格検査の概略				60			
⑲性格検査2: 投影法検査		【予習復習】投影法性格検査の概略				60			
⑳性格検査3: 作業検査法検査		【予習復習】作業検査法性格検査の概略				60			
㉑乳幼児の発達に関する検査		【予習復習】発達検査の概略				60			
㉒知覚・感覚に関する検査		【予習復習】知覚検査の概略				60			
㉓記憶に関する検査		【予習復習】記憶検査の概略				60			
㉔高次脳機能検査		【予習復習】高次脳機能検査の概略				60			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	40 %
使用テキスト: 適宜、資料を配布する。				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「主体的・対話的で深い学び」を実践的に修得するために、クエスト型授業によるアクティブ・ラーニングで学びます。									

専攻科看護学専攻

科目名:	看護管理論	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		3	後期	専門強化科目	演習	必修			
担当教員:	山元								
授業科目の学習教育目標の概要									
組織の一員として、多職種と協働しながら質の高い看護をマネジメントするために、適切な医療・看護を提供するための諸制度、人材育成、キャリア開発、組織間の調整、安全管理、経済的諸問題の対応や資源の活用について学習する。									
授業計画		学習内容				担当教員			
① オリエンテーション 授業の進め方について		看護管理論を進めるうえでの用語の定義と看護管理の要素と機能				山元			
②③ 看護管理の基本		看護管理者の役割と責務 マネジメントと看護管理の基礎 組織論と組織、集団の特性、組織文化 変化と変革、動機付けとエンパワメント				山元			
④ 看護管理の歴史		看護マネジメントの変遷と現代				山元			
⑤⑥ マネジメントプロセス		目標管理と看護管理の過程とマネジメントサイクルの活用と問題解決技法				山元			
⑦⑧ 日常業務のなかのマネジメント		看護サービス管理と看護業務マネジメント、 看護基準と看護手順、マニュアルについて				山元			
⑩ 看護とチーム医療		多職種との連携と協働				山元			
⑪ 医療安全・危機管理		安全な医療を提供するためのシステム(リスク マネジメント・感染管理・看護業務と訴訟)				山元			
⑫ 看護サービスとサービスの評価		看護サービスと質の評価(医療機能評価機構 の看護の評価基準)				山元			
⑬ 看護ケア提供システム		看護体制と人員配置 交代制勤務と労務管理				山元			
⑭ 組織とマネジメント		リーダーシップとマネジメント				山元			
⑮ 医療経済と看護管理		我が国の医療制度と診療報酬				山元			
⑯～⑲ 看護サービスとマネジメントの実際		施設設備のマネジメント 人的資源の管理と教育制度 看護職の専門性、職業倫理 情報マネジメント				山元			
⑳ 看護職とキャリア		キャリア開発と人材育成				山元			
㉑～㉓ 看護管理の実際		看護管理者へのインタビューを通して看護マ ネジメントの実際と課題の探求				山元			
㉔ 看護管理論のまとめ		学内での発表会				山元			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	50 %	論文	30 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	%
使用テキスト: 適宜、資料を配布する。									
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 看護管理(マネジメント)は、管理者になってから学ぶことではなく、日常の業務の分担や、夜勤チームや多職種との協働など、臨床では、あらゆる場面で必要とされていることを学んでください。マネジメント力は社会人基礎能力として大切なスキルの一つです、主体的に積極的に取り組み、現場の管理者のマネジメントスキルからも学びを深められることを期待しています。									

## 専攻科看護学専攻

科目名: NO11	臨地実践研修	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		10	通年	専門強化科目	実習	必修			
担当教員: NO5	坂東 紀代美 荒木 晴美 大橋達子 小倉 之子								
授業科目の学習教育目標の概要									
<p>看護師としてインターンシップにおける日々の看護活動の中で、看護職としての目標と課題を見出し、看護実践から得た知見を報告書に記録する。(50枚)</p> <p>対象の医療的・心理的・社会的ニーズに沿った知識・技術を習得し、教員との面談を実施しながら事例研究につなげる。</p> <p>開講前、担当教員全員でグループワークを行い、目標、学習内容、学生の指導方法など共通理解し各教員1名の学生を担当し、学生にかかわる。適時教員全員のカンファレンスを持ち、お互いの進行状況を確認しながら進める。</p>									
授業計画		学習内容				担当教員			
オリエンテーション 担当教員決定		看護実践の評価(レポート50枚)と1事例の看護実践報告について				全教員			
前期実践研修8h/30day。 1time/1week学内にて技術演習		看護計画立案、日々の活動から管理を学び、目標・課題につなげ成長をレポートにする。事例研究に着手する。				全教員			
中間カンファレンス		それぞれの学びを参考に、自分の活動を振り返り、後期につなげる。				全教員			
後期実践研修8h/24day		看護計画の評価を実施し、事例研究の文章化を進め発表する。実践研修での成長に関してを前期・後期合わせて50枚のレポートを作成。				全教員			
事例報告会		学修の評価、成長の報告、意見交換。レポート50枚、事例研究報告資料提出。				全教員			
看護実践研修の最終カンファレンス。						全教員			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	10 %
使用テキスト： 適宜、資料を配布する。		その他参考文献など：							
<p>講上の留意点（担当者からのメッセージ）：</p> <p>日々の実践を振り返り、事例課題を作成する。グループで意見交換、看護に対するリサーチクエスチョン、文献検索、結果へのアセスメント、考察、まとめのなど一連の看護過程を理解していく。</p> <p>また、担当教員との面談を行い、目標設定等計画的に進めていく力をもち学修活動を行ってほしい。</p>									

専攻科看護学専攻

科目名:	看護実践研究	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択
		5	通年	専門強化科目	演習	必修
担当教員:	長谷川 荒木 坂東 小倉 大橋					
授業科目の学習教育目標の概要						
看護現場におけるインターンシップで、研究テーマを見出し、研究計画書の作成、倫理的配慮、データ収集・分析といった一連の研究プロセスを学び、論文にまとめ発表する。						
授業計画		学習内容			担当教員	
① オリエンテーション 授業の進め方について		看護研究を遂行する上での約束事			長谷川	
②～④ 看護研究の進め方・研究テーマと目的		実践研究テーマ・目的について検討			長谷川	
⑤～⑦ 研究計画書作成の手順		目的、分析方法、文献検索、論文作成などの具体的方法について講義			長谷川	
⑧～⑩ 研究計画書作成		研究計画書作成の実施と点検			全教員	
⑪～⑫ 研究計画書作成		研究計画書修正および完成（最終確認：長谷川）			全教員	
⑬～⑭ 看護研究倫理について		人を対象とする看護研究倫理審査用紙作成（チェックリスト含む）			全教員	
⑮⑯ 看護研究倫理審査		研究倫理審査を実施し、修正後承諾を得て研究開始とするプロセスの実施			長谷川	
⑰～⑱ データ収集		施設、研究対象者への説明と承諾後、データ収集開始			全教員	
⑳～㉓ 研究計画に基づいた分析と結果から考察の推敲		一連の論文作成プロセスに沿ったデータ分析と評価の実施			全教員	
㉔～㉗ 論文作成		論文形式に沿った論文作成			全教員	
㉘㉙ 論文審査		規定日までに提出された論文の審査			長谷川	
㉚ 論文発表会		学内での発表会で発表する			全教員	
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	論文 80 %	発表: 20 %	実技試験:	%	その他: %
使用テキスト: 適宜、資料を配布する。				その他参考文献など: 質的研究の進め方・まとめ方(医歯薬出版)、質的研究Step by Step(医学書院)、質的研究と量的研究のエビデンスの統合(医学書院)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 主体的、積極的に取り組み、研究プロセスを修得してください。相談したいことがあれば可能な限り対応します。(必ずメールでアポイントしてください。)						